

特別講演

日本を取り巻く地政学的リスク

——米朝首脳会談をどう理解するか

キャノングローバル戦略研究所 研究主幹

宮家邦彦 氏

6月12日にシンガポールで史上初となる米朝首脳会談が行われた。
北朝鮮問題は今後、どのように展開していくのだろうか。

トランプ流交渉は驚くほど稚拙

トランプ大統領は交渉の達人などではない。興行の達人に過ぎない。彼の外交スタイルは常識外れだ。その理由を5点だけ挙げたい。第1に交渉の最初の段階で「会う」という切り札を切ってしまった。会談をより望んでいたのは北朝鮮の側だったのだから、最後までこのカードはとっておくべきだった。本来なら数カ月要するものを、熟考せず衝動的に決断した。第2に外交を自らのスキャンダルを目くらましに使う。最初に米朝首脳会談を行うと発表したのは3月8日の木曜日。実は、同じ週の月曜日に側近がおかしな発言をして新聞で叩かれている。火曜日には女性問題で彼自身が告訴された。水曜日には顧問弁護士が家宅捜索を受けている。こうした渦中に、北朝鮮側からの会いたいとのシグナルに飛びついた。メディアの追求を回避するためとしか考えられない。第3

にトランプ氏はツイッターでもインタビューでも余計なことをしゃべり過ぎる。だから、手の内がばれる。第4は制裁解除・支援という経済的利益をもち出せば、核を放棄させられると考えた点だ。経済的利益で戦略的利益を代替できているのだろうか。大間違いだ。第5は自分が特別な才能をもっているとの過信。トランプ大統領は「歴史的会談」という見せ物で国際的関心を集めたが、米国が得たものはほとんど何もない。外交交渉としては驚くほど稚拙だった。

だまされたふりをして会談実現か

北朝鮮にとっても日本にとっても問題の本質は、本当に北は核放棄をするのかどうかだ。北にとって核は交渉の切り札。トランプ大統領と金正恩朝鮮労働党委員長が笑顔で握手したことなど関係ない。ところが今回、共同声明には「完全な朝鮮半島の非核化」とだけしか入らなかった。焦点である「完全で検証可能かつ不可逆的な非核化」は記されていない。トランプ氏は記者会見で「北朝鮮は核兵器を放棄する」と繰り返し、会談の意義を強調したが、むなしく響いた。北の粘り勝ちと言っているだろう。

今後の可能性は4つしかない。2×2のマトリクスで、金正恩委員長が正直か、正直でないか。トランプ大統領が正しい判断をするか、間違った判断をするかだ。

第1は金正恩氏が正直でトランプ氏が正しい判

北朝鮮基礎データ

面積	12万余平方キロメートル (朝鮮半島全体の55%) ※日本の33%に相当
人口	約2515.5万人 (2015年、国連経済社会局人口部)
名目GNI (国民総所得)	34.2兆韓国ウォン (2014年、約3.4兆円)
1人当たり GNI	138.8万韓国ウォン (2014年、約13万9千円)

(出所) 外務省データを元に日外協作成